

横田、REFORPAC 2025後も迅速な運用を継続（1）  
*Yokota maintains high-tempo operations following REFORPAC 2025*

Aug. 20, 2025

By Staff Sgt. Spencer Tobler  
374th Airlift Wing Public Affairs

(写真1)8月6日、横田基地の飛行場で10K全地形対応フォークリフトを誘導する、第36空輸中隊ロードマスターのイオサイア・ラバタイ上級空兵。

同中隊は、太平洋空軍で唯一の戦術空輸能力を有する部隊として、地域内の空輸や特殊作戦に即応できる態勢を維持している。



1

(写真2)10K全地形対応フォークリフトに乗り込む、第374装備即応中隊戦闘機動小隊技術官のダニエル・シュグル1等空兵。

第374装備即応中隊は、第374空輸航空団のロジスティクスを同期させ、太平洋空軍の唯一の戦術空輸能力を迅速かつ大規模に運用できるよう支えている。



2

(写真3)コンテナ投下用バンドルをC-130Jスーパーハーキュリーズに積み込む、第374装備即応中隊戦闘機動小隊技術官エルビン・ガグド上級空兵(左)と、第36空輸中隊ロードマスターのイオサイア・ラバタイ上級空兵。



3

## 横田、REFORPAC 2025後も迅速な運用を継続（2） *Yokota maintains high-tempo operations following REFORPAC 2025*

Aug. 20, 2025

By Staff Sgt. Spencer Tobler  
374th Airlift Wing Public Affairs

(写真4) 8月6日、横田基地の飛行場でコンテナ空中投下に向けたC-130Jスーパーハーキュリーズの準備を行う、(左から)第36空輸中隊ロードマスターのシドニー・クビーロ1等空兵、計画・プログラム担当のエリック・アレン技能軍曹、そして飛行計画調整下士官責任者のエリック・リチャードソン軍曹。



4

(写真5) 横田基地近郊での飛行任務中、空挺投下用のコンテナ物資を準備する、第36空輸中隊計画・プログラム担当のエリック・アレン技能軍曹。



5

(写真6) キャンプ富士諸職種共同訓練センター付近での定期訓練で、指定された投下地帯に向けて飛行する第36空輸中隊のC-130Jスーパーハーキュリーズ。



6